

第2回 昭島市公共施設等総合管理計画策定検討委員会

要点記録

日時：平成28年7月22日（金）

午後6時30分～8時30分

会場：本庁舎3階 庁議室

次 第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議題
 - (1) 第1章（昭島市の概要）の検討について
 - (2) 第2章（公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針）の検討について
- 4 その他
- 5 閉会

配布資料

- ・ 公共施設等総合管理計画（案）（第1章から第2章まで）
- ・ 施設別建設年度一覧
- ・ 委員名簿
- ・ 第1回昭島市公共施設等総合管理計画策定検討委員会要点記録

出席者（敬称略）

委員長・・・荒井委員

副委員長・・・和田委員

委員・・・五十嵐委員、岡部委員、中島委員、堀井委員、水野委員、柳井委員、安部委員、枝吉委員

事務局・・・山下（企画部長）、萩原（企画部企画政策課長）、浅利（企画部企画政策課企画調整担当係長）、川島（企画部企画政策課主任）

策定支援業者・・・宗和、沼田（有限責任監査法人トーマツ）

傍聴者・・・なし

1. 開会

事務局・・・これより第2回昭島市公共施設等総合管理計画策定検討委員会を開催する。

○第1回委員会において、和田副委員長より質問のあった会議の公開及び個人情報保護の取扱いについて、「昭島市附属機関等の設置及び運営に関する要綱」に基づく取扱いをしていることを説明。

○第1回委員会において、枝吉委員より依頼があった公共施設の建設年度を示す資料については、今回の配布資料「施設別建設年度一覧」をもって回答とする旨を説明。

○事務局より配布資料の確認

2. 委員長あいさつ

荒井委員長・・・今回は計画策定の目的・内容といった概要の説明であったが、ここからは実際の計画案をもとに検討を進める。今回は昭島市の概要として第1章の検討、また、公共施設等の総合かつ計画的な管理に関する基本的な方針として第2章の検討に入る。事務局からそれぞれ説明があるが、活発な議論をお願いしたい。

3. 議題

(1) 第1章（昭島市の概要）の検討について

○事務局より「昭島市公共施設等総合管理計画（案）」に基づき、第1章（昭島市の概要）について説明

荒井委員長・・・今の事務局の説明に対し意見や質問はあるか。

和田副委員長・・・第1章の中で、公共施設等の状況が記載されているが、その中で各施設の利用状況についても触れたほうが良いのではないか。

事務局・・・第1章については、昭島市の概要として、市が抱えている公共施設等の建築年数や配置状況、さらには更新費用を踏まえた財政推計をしており、今後不足する財源を押さえた。それを踏まえて第2章では公共施設等全体に対する基本方針を打ち出している。質問にあった利用状況については、各施設様々である。こういった細かい部分については、この後第3章において施設類型ごとの利用状況、老朽化やコスト分析をして課題を洗い出していく、その中で課題のある施設類型に対して今後どのように基本方針に沿った取組みを進めていくのかを検討していくこととなる。

荒井委員長・・・第1章では更新のために将来かかる経費を概算すると、お金が足りず、今保持している公共施設を維持していくということにも限界があるということを記載している。将来、統廃合等を図ってスリム化していくことも必要となることを第2章の基本方針の前提として把握していただくということが趣旨だと思う。

事務局・・・財源不足の視点のみではなく、人口減少によって年齢階層の変化に応じて施設のニーズも変わるということも踏まえ、適切な配置等を考えていかなければいけない。さらに、すべての公共施設に対応していくことが困難な状況にあることから、市全体として適正な配置分布を考えていかなければいけないという視点も踏まえ、今後の基本的な方針も考えていかなければいけない。

水野委員・・・全体的に文章の構成が長いので、小見出しをつけて整理すると良い。また、ポイントとなる部分についてアンダーラインを付して強調する等したほうがよいのではないか。

事務局・・・最終的に計画をまとめる段階で事務局において、メリハリのある表記をしてい

きたい。

和田副委員長・・・表記の方法に関連するが、財政の状況について、他市を比較しても遜色ない財政指標となっていることから昭島市の努力をもっと強調して表現しても良い。

事務局・・・その部分について、財政推計の項目で触れているが、少し強調する表記等を検討する。

荒井委員長・・・市は行財政健全化に取り組んできたが、公共施設等のあり方についても踏み込んでいかなければならない状況であることを市民の方には理解してもらわなければならない。今後市民の合意形成を得るためには必要な記載である。

和田副委員長・・・清掃センターの建替え・更新が課題となっているという話を聞いたが、中期財政計画期間内の大規模建設事業の中に記載がないが、これは含めないのか。

事務局・・・清掃センターについては莫大な更新費用がかかる。検討の中では、広域行政での運用や建替えを選択する等いろんな選択肢がある。そういった状況の中で、平成 32 年度までの中期財政計画期間内においては、延命化を図るための定期的な修繕を行っているので、大型建設事業としては位置づけていない。

和田副委員長・・・20 年間を計画期間とする本計画においては含めるべきではないのか。

事務局・・・36 ページで記載している事業は、既に着手しているものや事業が計画されているものである。清掃センターの更新については、今後 20 年間を想定すると当然検討していかなければならない課題であるので、具体的には第 3 章の施設類型別の課題整理の中で検討していく。

和田副委員長・・・その考え方が財政推計の結果にも入ってくるという理解でよいか。

事務局・・・これを具体的な数値として取り扱うことはあまりにも大きな金額であるため、財政計画にも大きな影響を与えることから、広域化も含めて検討を重ね、第 3 章で個別に載せていく。

枝吉委員・・・中期財政計画期間内の大規模建設事業に記載のある市民交流センター整備事業は具体的にどういうことをするのか。また、7 月 1 日号の広報に「耐震診断の結果、避難所の基準に合わないため避難所の指定を解除する。しかし、建物自体の耐震性は基準を満たしているので通常どおり使用できる。さらに、11 月から耐震の補強に入る」と出ていた。矛盾している気がするが、この件について、説明をお願いしたい。

事務局・・・市民交流センターの耐震診断の結果について、IS 値は通常の公共施設として利用できる値はクリアしているが、震災発生時の避難場所として位置づけるためにはさらに上の基準をクリアしなければならず、その数値までには達しなかったという内容である。また、補強工事については、施設全体としては耐震性があるが、一部の指摘事項として、トイレの壁の構造がブロックでつみあがっている内部構造があり、その部分について震災時に崩れてしまうおそれがあるため、補強をするといった工事内容である。

市民交流センターについては、数年前に複合施設としての建替えが検討されていたが、国土交通省の国庫補助対象から外れたことで、計画が休止している。現在、防衛省の補助金等を活用しながら建替えについての基金を積み立てているところである。このような建替え計画もある中で、直近では必要最低限利用できる公共施設としての機能を維持する一方で、避難所としての使用は解除したという経

緯となっている。

枝 吉 委 員・・・他の避難所については基準をクリアできているのか。

事 務 局・・・避難所として指定しているところについては、補強して基準を満たすようにしている。

枝 吉 委 員・・・更新費用の算定の前提に耐用年数 60 年とあるが、60 年とした理由は何か。

事 務 局・・・総務省の HP で公開され、一般財団法人地域総合整備財団（ふるさと財団）が提供している計算ソフトで押さえている年数を使用している。

枝 吉 委 員・・・1960 年代に建築された建物は、建築技術に乏しく、弱点を持っているものが多い。1970 年代に発展、1980 年代には現在と同レベルくらいまで技術が向上したという背景がある。既存の建物を建替える場合は、十分調査した上で決定してほしい。

（２）第２章（公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針）の検討について

○事務局より「昭島市公共施設等総合管理計画（案）」に基づき、第２章（公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針）について説明

事 務 局・・・縮減面積については、財源不足額を 1 ㎡あたりの単価で割ることで機械的に算出した数字であり、仮置き数字である。例えば、財源不足額から導き出される縮減面積 42,000 ㎡に対して、実際の縮減面積が 30,000 ㎡であったとしても、縮減した施設に関するランニングコストも削減できることから、42,000 ㎡の面積を縮減しなくても、財源不足を解消できるという考え方もある。市の公共施設の保有面積 220,000 ㎡に対して 42,000 ㎡という数値は実現困難な場合も考えられるので、広い視野で検討していきたい。

荒 井 委 員 長・・・今の事務局の説明に対し意見や質問はあるか。

和田副委員長・・・42,000 ㎡とすると確かに目標達成が厳しい。目標は財源不足を埋めることにあ
る。基本方針を記載する前に、今事務局が説明された内容を入れたほうがよいのではないか。

事 務 局・・・現在の保有施設の面積に対して、その 20%を縮減するという目標は実現不可能
だという印象を与えてしまう。先ほど申し上げたランニングコストの削減も視
野に入れた記載をしたい。

荒 井 委 員 長・・・縮減することが唯一の目的ではない。あくまで財源不足を解消するためのひと
つの手段である。誤解を生む可能性もあるので、記載を変えたほうが良い。

事 務 局・・・基本方針①については、これまで議論した内容をもとに修正する。

和田副委員長・・・41 ページに「公共施設等の管理に関する基本的な方針」、56 ページに「公共施
設等の管理に関する基本的な考え方」の記載がある。タイトルが似ているが内
容は違う。56 ページ以降では実施方針というワードが使われている。言葉の表
現の仕方、前後のつながりがあいまいな部分について修正したほうが良い。

事 務 局・・・ご指摘の通り。次回以降修正案を示す。基本的な方針の表現の仕方について再
度見直す。

和田副委員長・・・市民アンケートの表現の方法はこれでよいのかと感じた。第２章の基本方針の
中でアンケートを位置づける必要があるのか。

水 野 委 員・・・昭島市の概要を記載している第１章にアンケートを入れたほうがよいのではない

か。市民の意見は非常に重要であり、それをもとに方針を決めているという表現が良い。

五十嵐委員・・・全体として非常に良くできていると評価できる。アンケートについて議論するよりも、個別の案等について議論を深めることの方が重要な役割ではないのか。

荒井委員長・・・アンケートは、市民の声を市が情報として吸い上げていることを示す大事な資料である。それを第1章に客観的な事実として盛り込むのも一つの案である。今の意見を踏まえ、アンケート結果の記載方法を検討していくと良い。

和田副委員長・・・市民アンケート調査結果について、項目として目次に明記したほうが良い。

事務局・・・適切な位置にアンケートを記載できるように検討する。

岡部委員・・・第2章に短期・中期・長期目標とあるが、それぞれの期間に合計168施設をどう割り振りをして、把握しているのか。

事務局・・・第3章で現状施設類型ごとに分析していった上でそれぞれの期間の記載をしていく。集約可能なのか、更新していく必要があるのか等も含めて考えていく。また、統廃合というのは非常にデリケートな問題であり、慎重に考えていく。

堀井委員・・・今ある施設を活用して収益を生み出す考え方はないのか。それを検討する部署はあるのか。

事務局・・・収益について検討する部署としては、企画政策課、行政経営担当、財政課などがある。

荒井委員長・・・基本方針の⑨で民間活力を活かした行政サービスについて記載されているように、基本方針に収益増の考え方は盛り込まれており、視野には入っている。いろんなアイディアを反映させていければよい。

五十嵐委員・・・財政的な問題についてまで、この委員会で議論していくのか。現在、こういう財政状況になってしまったのは、15年も前から想定できていたこと。財政運営をどうやって向上させるかについて考えていかないと、何も実現しないのではないか。財政的な基盤について計画を進めていくのか疑問に思っている。

事務局・・・財政的な問題については委員会で詳細に触れようとは考えていない。分析の結果として数字を載せているだけであって、財政運営が困難であるというひとつの説明のためのものである。そこに委員会が踏み込んでしまうと、また別の大きな課題にまで踏み込んでしまう。財政問題をよりよい状況にもっていくために公共施設はどうあるべきかという視点で考えていただきたい。

6. その他

事務局・・・第3回外部委員会は8月17日（水）18：30から実施予定とする。

7. 閉会

荒井委員長・・・本日はこれをもって会議を閉会とする。今後ともよろしくお願いいたします。